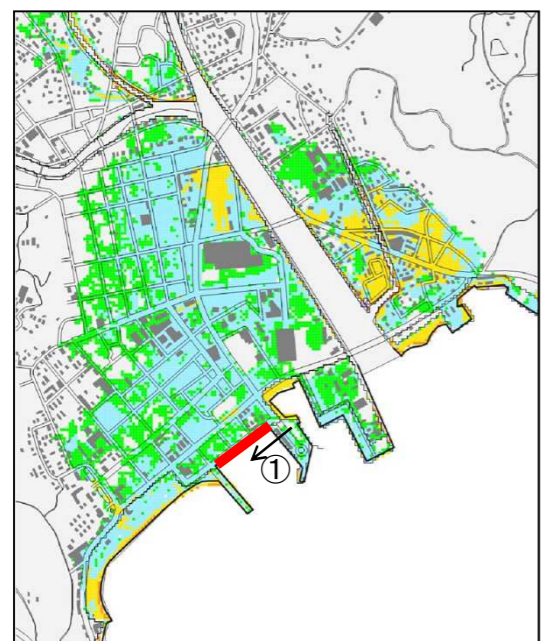


洲本-1	海岸名	洲本港	地区名	洲本市海岸通他	構造形式	控え矢板式
------	-----	-----	-----	---------	------	-------

◆位置図

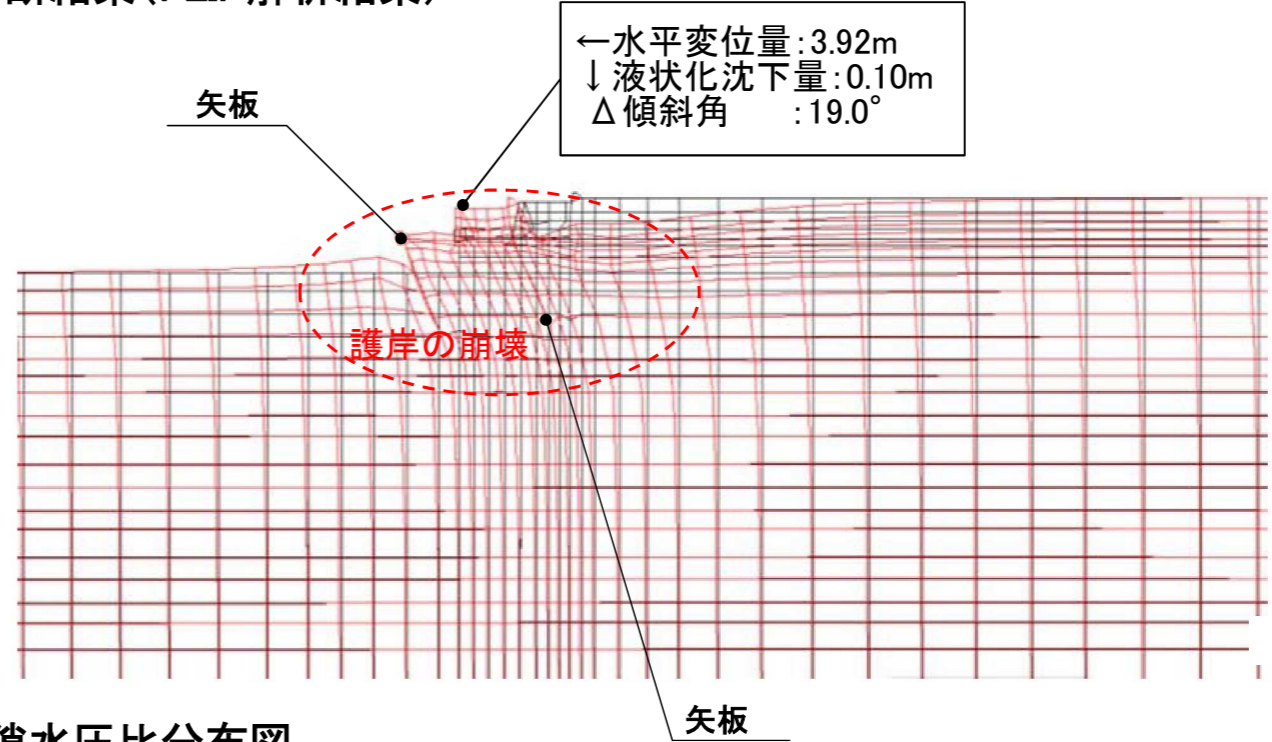


写真①



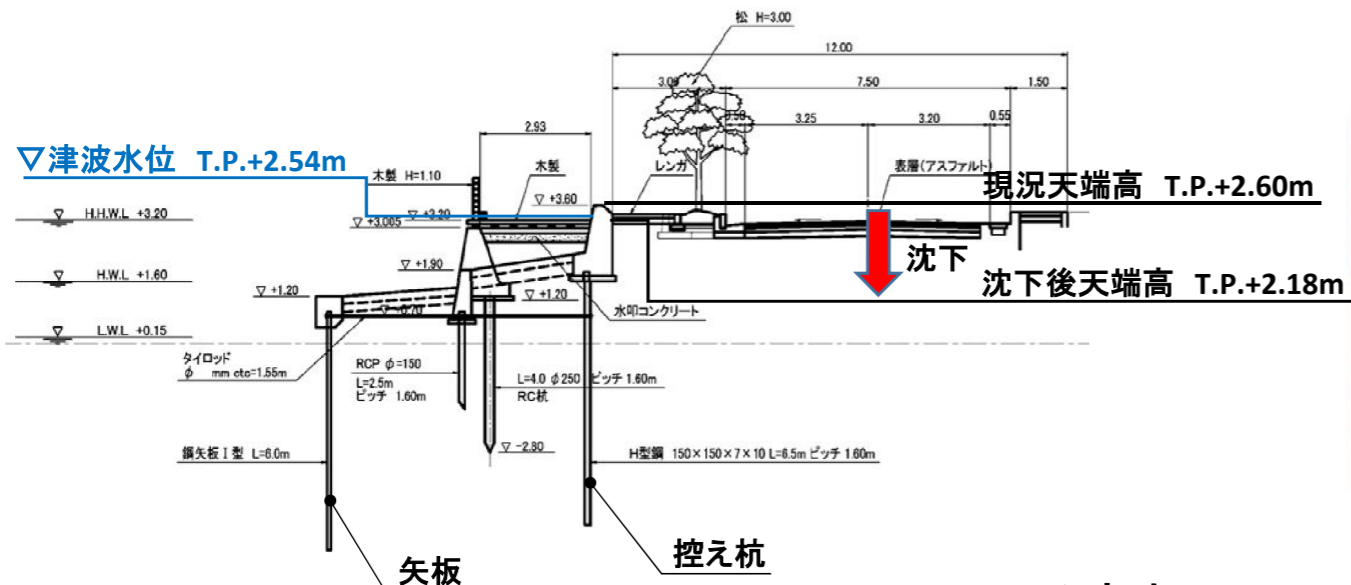
◆詳細耐震診断結果 (FLIP解析結果)

変形図

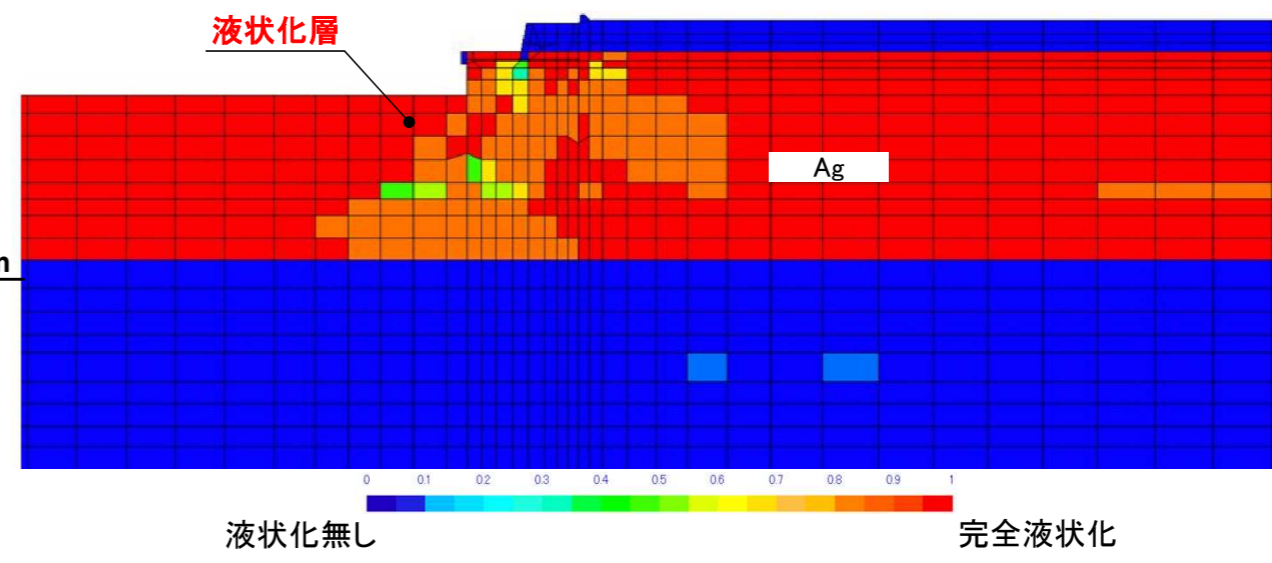


※変形図は等倍

◆標準断面図



過剰間隙水圧比分布図



\* 標準断面図で示す沈下においては、液状化による沈下だけでなく地殻沈降も考慮したものとしている。

◆考察

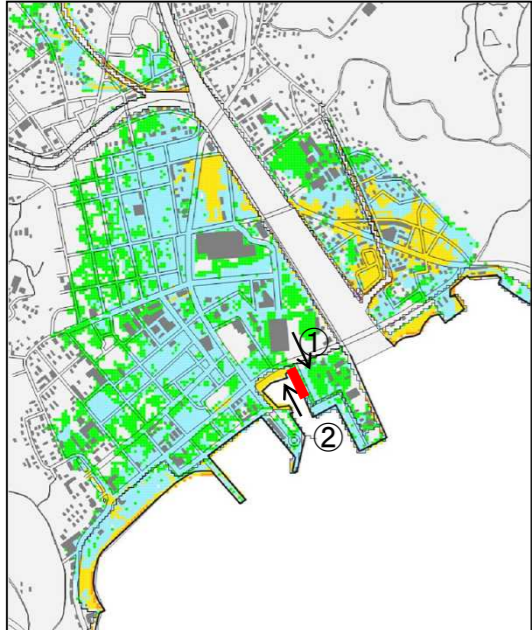
・南海トラフ巨大地震による防潮堤の残留変形量は、沈下0.10m、水平3.92m、傾斜19° と非常に大きく、地震後の安定性は完全に消失している状態にある。  
 ・また、防潮堤として一体的な構造である矢板式護岸において、矢板の断面力が全塑性に達し倒壊した状態にあるほか、防潮堤背後の地盤変状も著しい。  
 ・このことは、津波越流時(越流深0.36m)における防潮堤の粘り強さが消失している可能性が高いと推察され、更なる防潮堤の倒壊を招く可能性が高い。  
 ・以上の内容を踏まえ、津波の浸水被害を最小限に抑えるためには、津波の越流に対するねばり強い構造のほか、矢板護岸の倒壊を抑制する対策を行う必要がある。

◆対策要否

⇒ 対策必要

洲本-2	海岸名	洲本港	地区名	洲本市海岸通他	構造形式	自立矢板式
------	-----	-----	-----	---------	------	-------

◆位置図



写真①

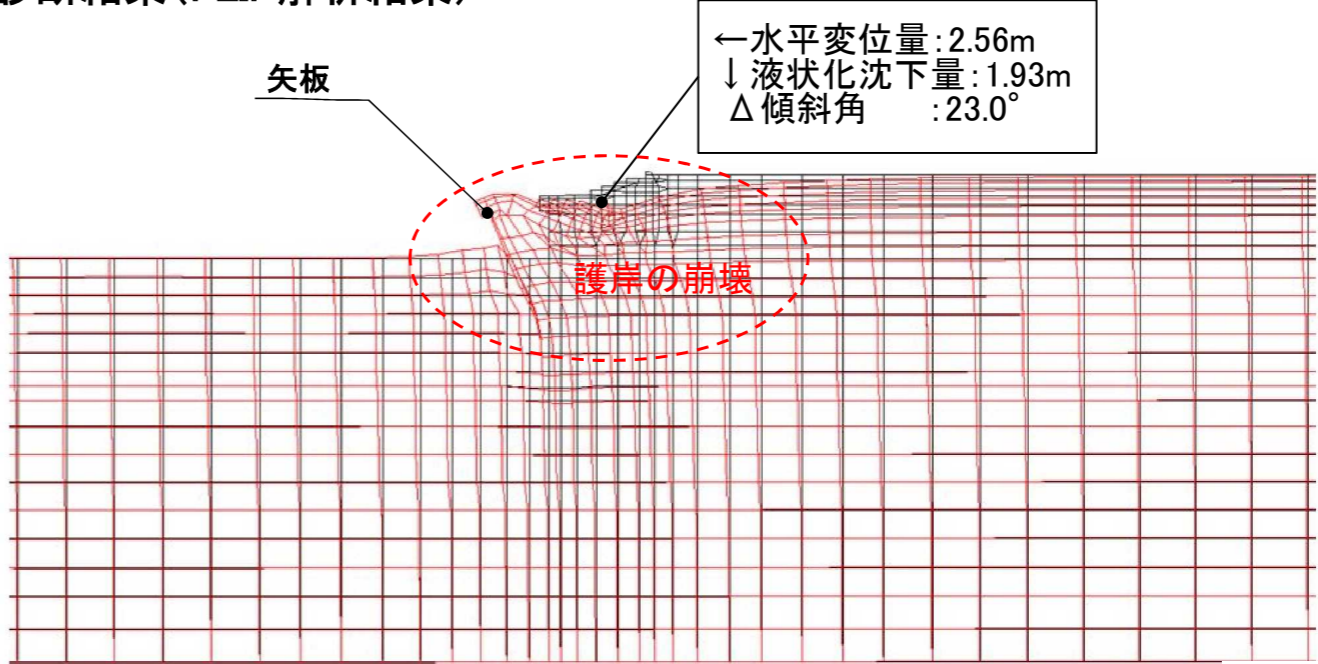


写真②



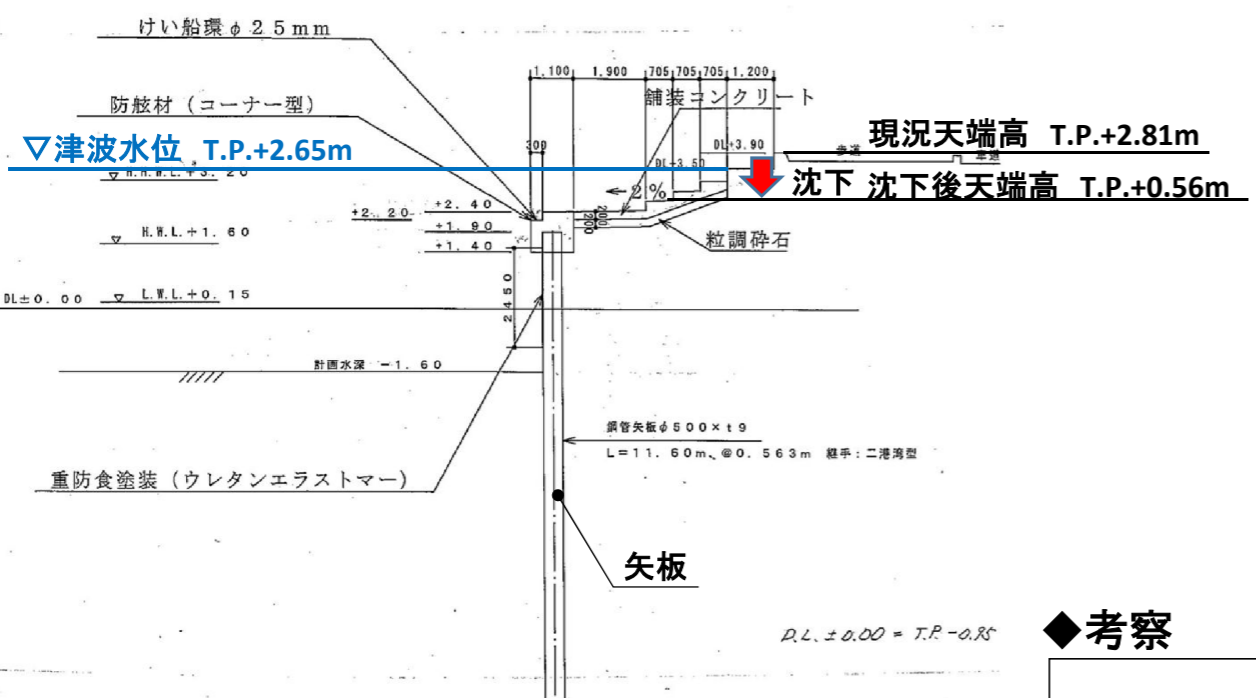
◆詳細耐震診断結果 (FLIP解析結果)

変形図

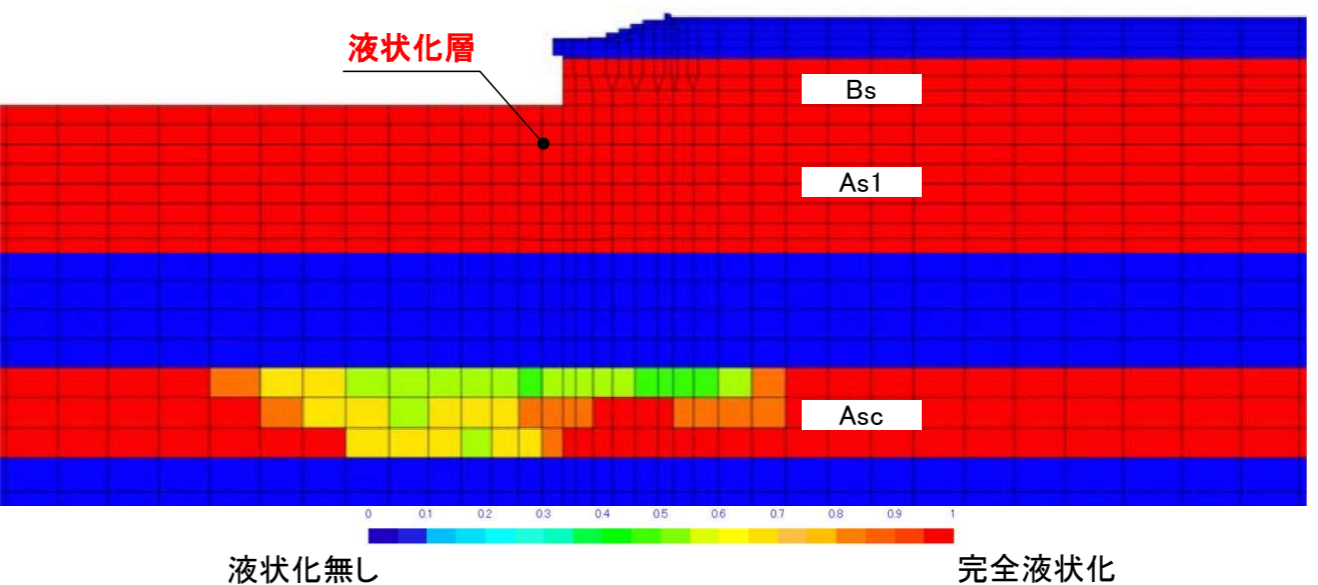


※変形図は等倍

◆標準断面図



過剰間隙水圧比分布図



◆考察

・南海トラフ巨大地震による防潮堤の残留変形量は、沈下1.93m、水平2.56m、傾斜23° と非常に大きく、地震後の安定性は完全に消失している状態にある。  
 ・また、防潮堤前面の矢板式護岸において、矢板の断面力が全塑性に達し倒壊した状態にあるほか、防潮堤背後の地盤変状も著しい。  
 ・このことは、津波越流時(越流深2.09m)における防潮堤の粘り強さが消失している可能性が高いと推察され、更なる防潮堤の倒壊を招く可能性が高い。  
 ・以上の内容を踏まえ、津波の浸水被害を最小限に抑えるためには、津波の越流に対するねばり強い構造のほか、矢板護岸の倒壊を抑制する対策を行う必要がある。

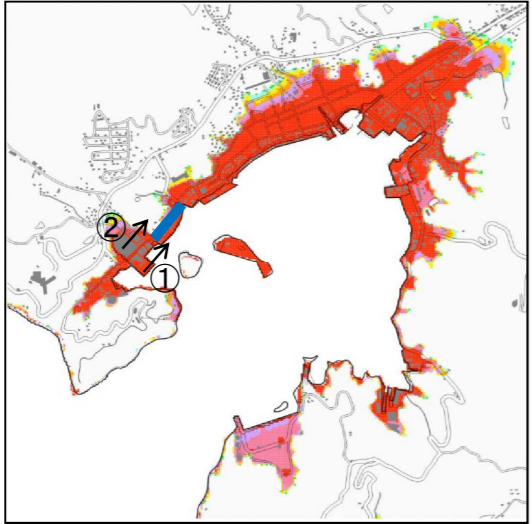
◆対策要否

対策必要

\* 標準断面図で示す沈下においては、液状化による沈下だけでなく地殻沈降も考慮したものとしている。

福良-1	海岸名	福良港	地区名	南あわじ市福良	構造形式	傾斜式
------	-----	-----	-----	---------	------	-----

◆位置図



写真①

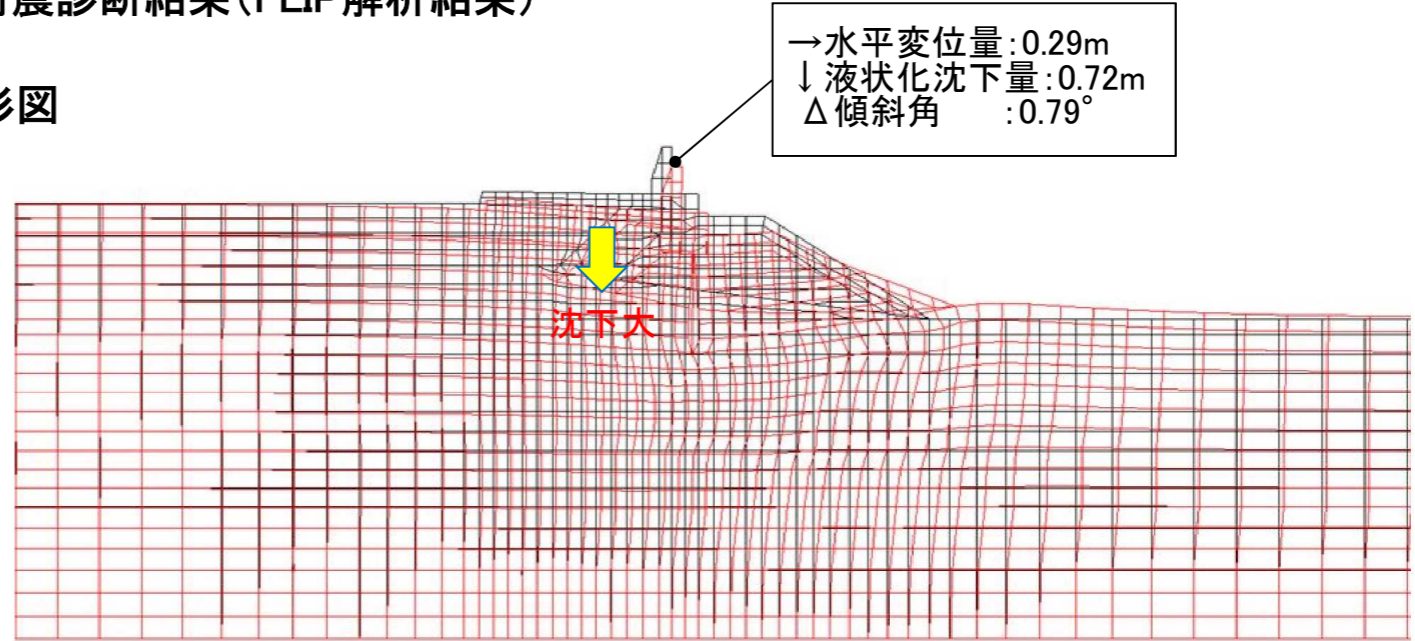


写真②



◆詳細耐震診断結果 (FLIP解析結果)

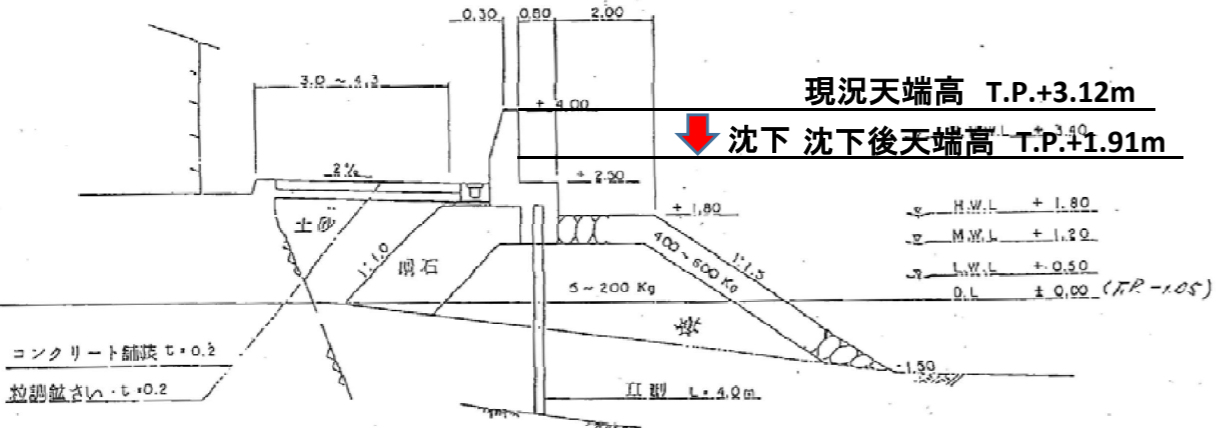
変形図



※変形図は等倍

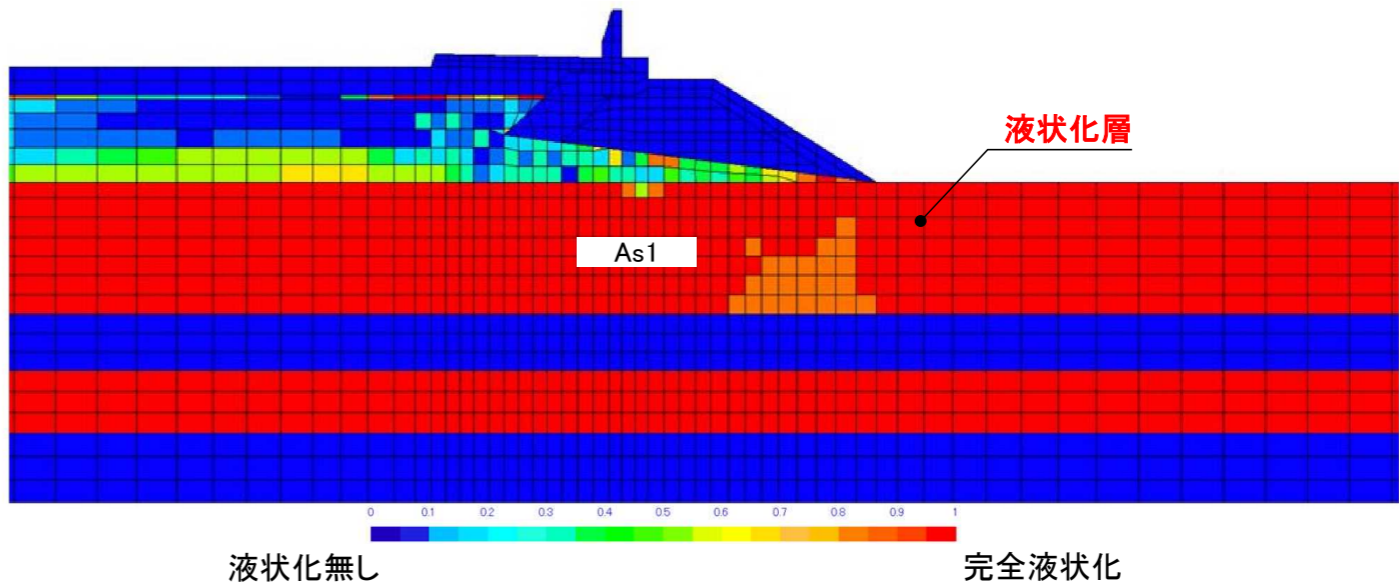
◆標準断面図

▽津波水位 T.P.+7.75m



\* 標準断面図で示す沈下においては、液状化による沈下だけでなく地殻沈降も考慮したものである。

過剰間隙水圧比分布図



◆考察

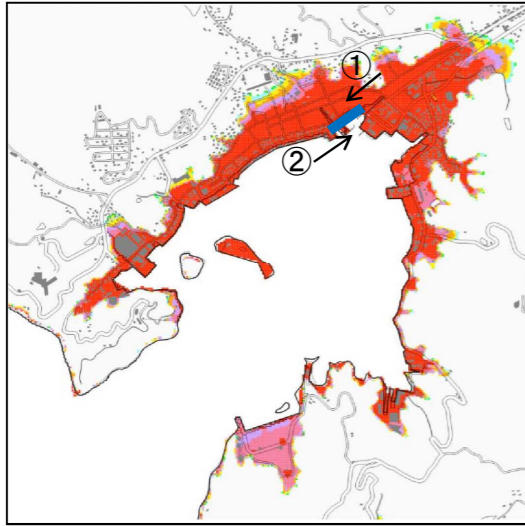
・南海トラフ巨大地震による防潮堤の残留変形量は、沈下0.72m、水平0.29m、傾斜0.79°であり、地震後の安定性は確保されている。  
 ・なお、As1層の液状化により護岸が沈み込むような変形をしており、それに伴って防潮堤背後にも大きな地盤変状(不陸)が確認される。  
 ・なお、当該地の津波高が非常に大きく(越流深5.84m)、沈下対策などによる対策効果が期待できない。  
 ・以上の内容から、当該施設においては沈下対策は不要とする。

◆対策要否

対策  
不要

福良-2	海岸名	福良港	地区名	南あわじ市福良	構造形式	重力式
------	-----	-----	-----	---------	------	-----

◆位置図



写真①

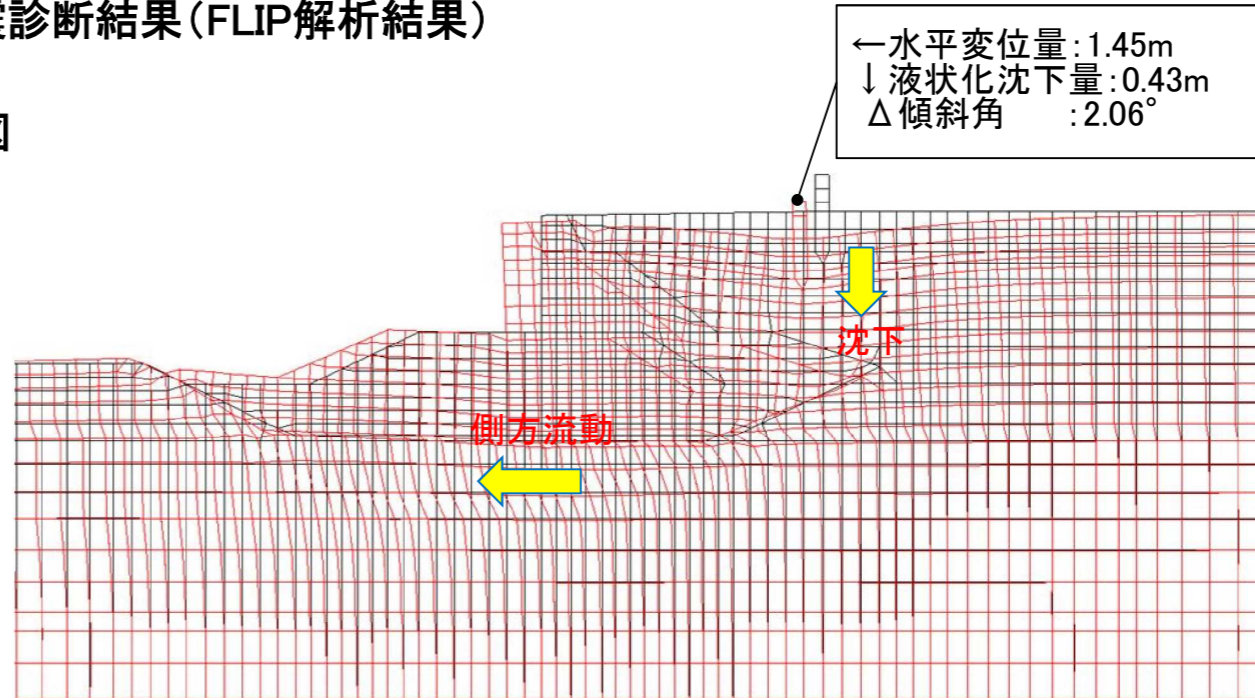


写真②



◆詳細耐震診断結果 (FLIP解析結果)

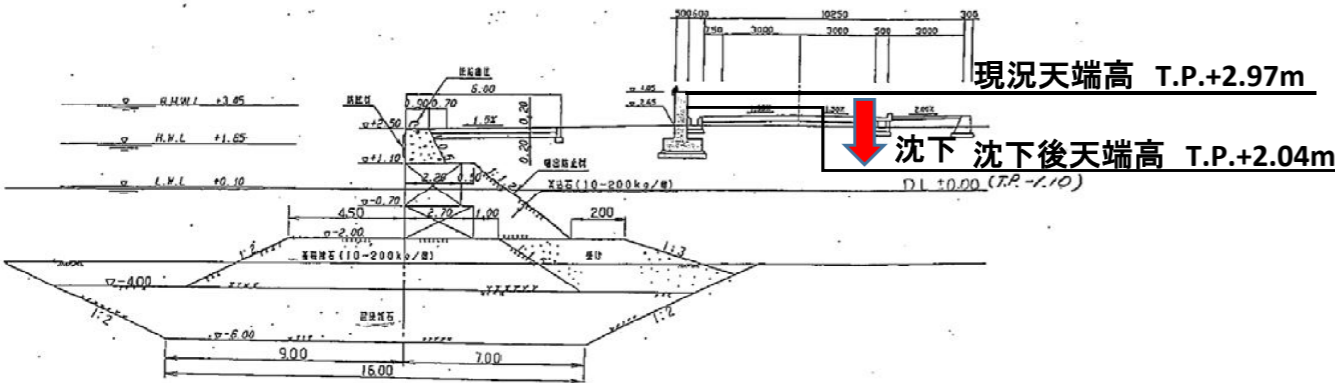
変形図



※変形図は等倍

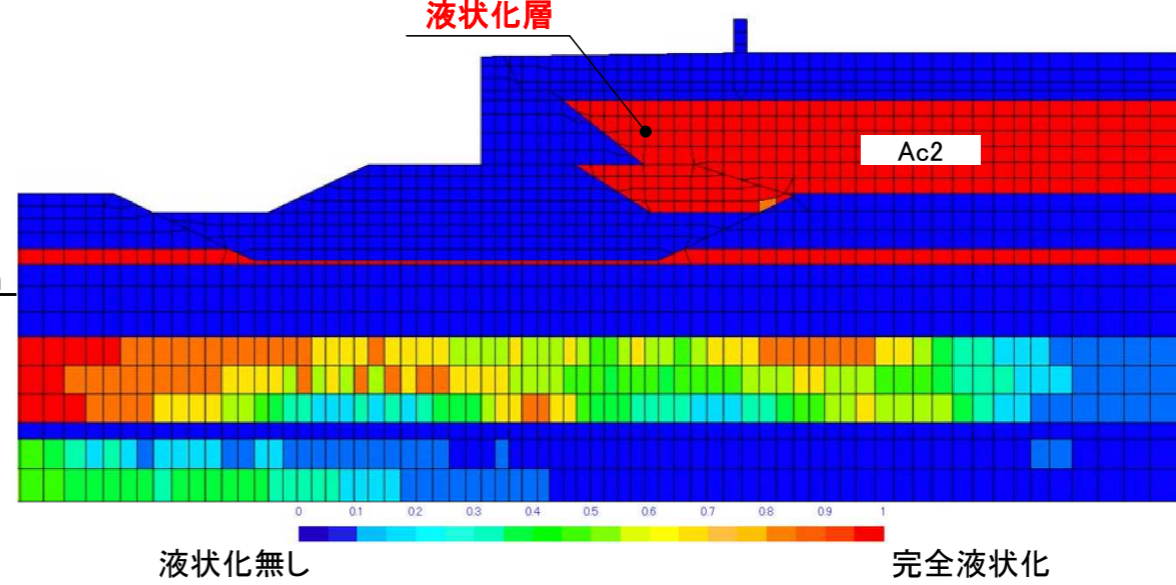
◆標準断面図

▽津波水位 T.P.+7.91m



\* 標準断面図で示す沈下においては、液状化による沈下だけでなく地殻沈降も考慮したものである。

過剰間隙水圧比分布図



◆考察

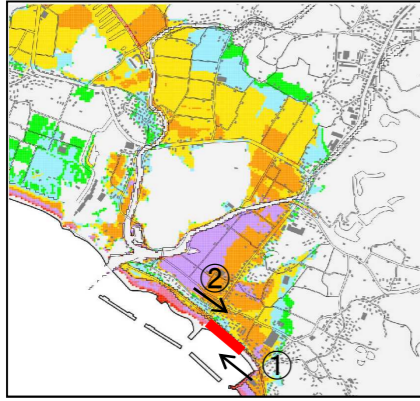
・南海トラフ巨大地震による防潮堤の残留変形量は、沈下0.43m、水平1.45m、傾斜2.06°であり、地震後の安定性は確保されている。  
 ・なお、護岸の側方流動的な変形挙動は、護岸直下の軟弱なAc2層で発生しており、液状化により護岸が沈み込むような変形をし、それに伴って防潮堤背後にも大きな地盤変状(不陸)が確認される。  
 ・なお、当該地の津波高が非常に大きく(越流深5.87m)、沈下対策などによる対策効果が期待できない。  
 ・以上の内容から、当該施設においては沈下対策は不要とする。

◆対策要否

対策  
不要

阿万-1	海岸名	阿万港	地区名	南あわじ市阿万西町	構造形式	傾斜式
------	-----	-----	-----	-----------	------	-----

◆位置図



写真①



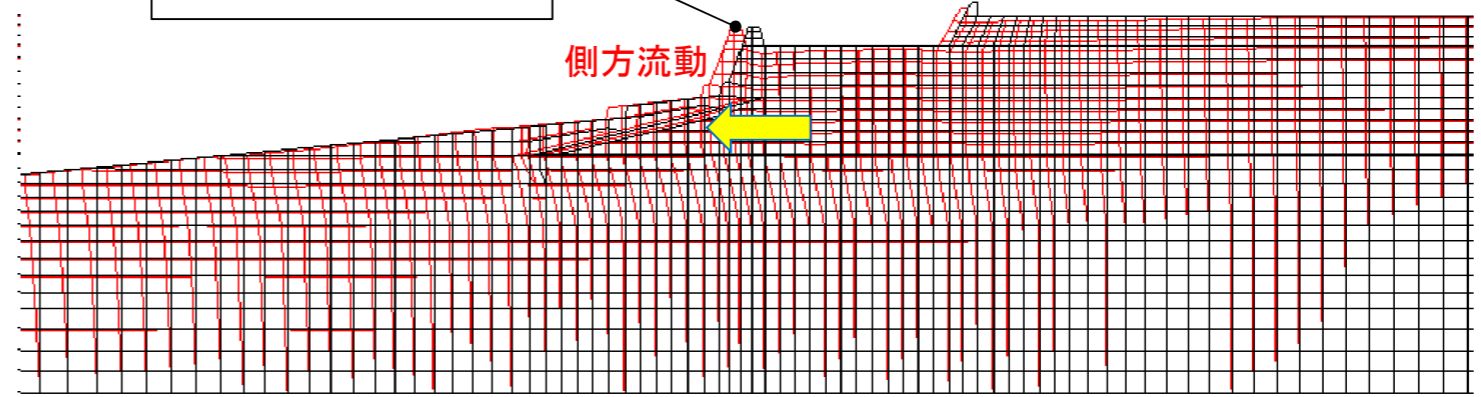
写真②



◆詳細耐震診断結果 (FLIP解析結果)

変形図

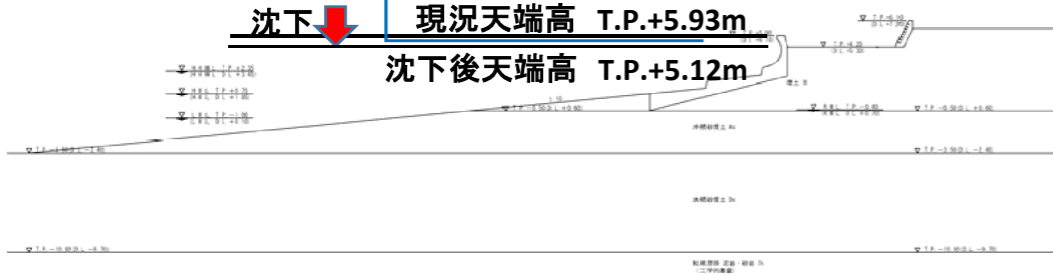
←水平変位量:0.74m  
↓液状化沈下量:0.26m  
△傾斜角 :0.31°



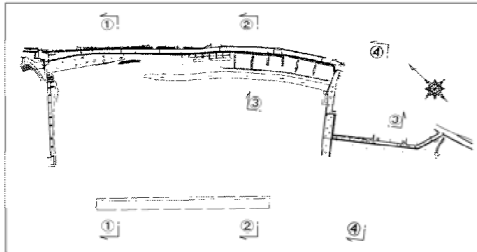
※変形図は等倍

◆標準断面図

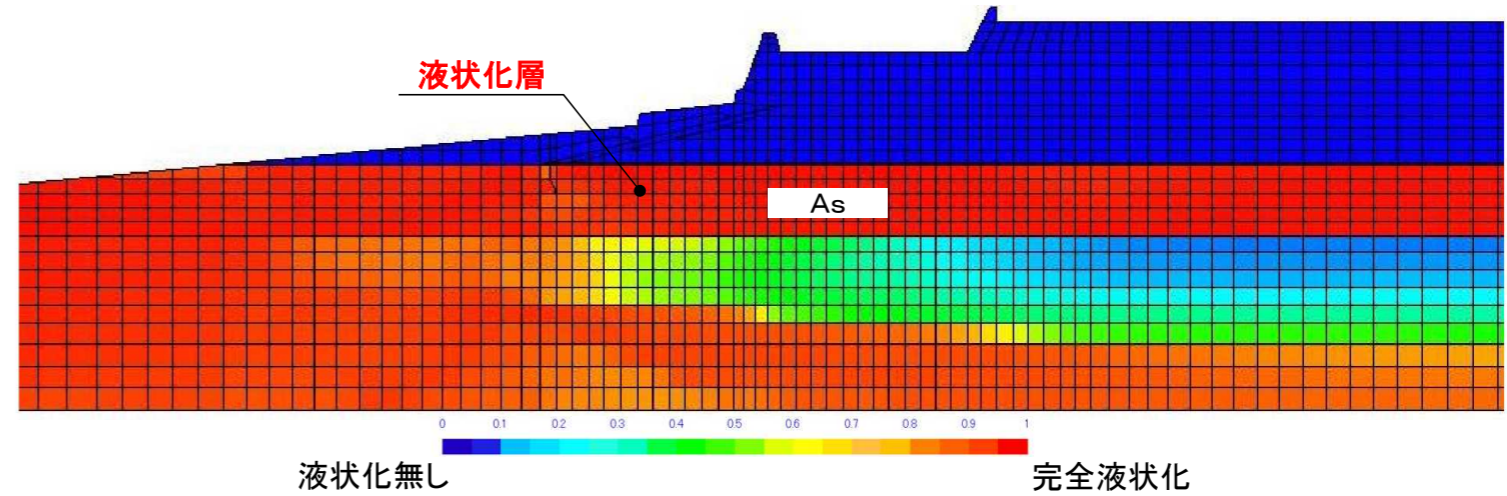
▽津波水位 T.P.+5.82m



Key Plan



過剰間隙水圧比分布図



\* 標準断面図で示す沈下においては、液状化による沈下だけでなく地殻沈降も考慮したものである。

◆考察

- ・南海トラフ巨大地震による防潮堤の残留変形量は、沈下0.26m、水平0.74m、傾斜0.31°であり、地震後の安定性は確保されている。
- ・なお、As層の液状化により護岸に側方流動的な変形が生じているが、防潮堤の機能に対する影響は小さく、防潮堤背後の地盤変形も小さい。
- ・防潮堤の安定性が確保され、背後の地盤変形も小さいことから、津波越流時(越流深0.7m)における防潮堤の粘り強さは保たれていると考えられ、更なる防潮堤の倒壊を招く可能性は低い。
- ・以上の内容から、当該施設において対策を行う必要はない。

⇒ 対策不要